

現場の労働者・労働組合の団結した力で

雇い止め＝解雇を阻止しよう!

支部・分会は雇い止め＝解雇をさせないために闘おう!

JPEXの赤字の責任を居直り、あげくのはては非正規労働者の首切りで乗り切ろうとする日本郵政・斎藤社長、郵便事業会社・鍋倉社長は郵政から出ていけ!

日本郵政は、斎藤社長・鍋倉社長を先頭に自らの責任でつくったJPEX子会社化をはじめとした1185億円の赤字の責任をまたも居直り、全国の65歳以上の非正規職員を含む労働者の首切りを進めています。ふざけるなという怒りです。首切りは、私たち労働者とその家族の生活を破

壊するものです。人間として生活し生かすために、働きにきていてのではないですか! さんざんこき使っておきながら、赤字だからと首切りすることの、どこに道理があるのでしょうか。

私は、正社員です。朝5時からあるいは泊まりの劣悪で低賃金の労働条件の中で、日夜郵便事業を動かしている非正規労働者を、「モノ扱い」して首を切ることを、同じ職場で働く労働者として絶対に許すことは出来ません。

「辞めない」と闘おう!

非正規労働者のみなさんに声を大にして訴えます! 「辞めない」とはつきりと意思表示しよう。そ

してこういふ時こそ一人で悩まないで、労働組合に入って首切りをさせないために団結して話し合い、一人の首切りもさせないように闘おう。

正社員こそ、非正規の仲間の先頭で闘おう!

そして、正社員のみなさんに訴えます。同じ職場で一緒に働いてきた、それも非正規労働者のみんながいて初めて私たちの仕事も回ってきたのは間違いのない事実です。非正規労働者の仲間がいなくなったらどうなるんですか。労働強化になることは目に見えています。こんな時こそ正社員が先頭になって、首切りをさせない組合運動を

やるときでは無いでしょうか。こういうことを見てみないふりでは、経営者のおも

うつばです。民営化でめちゃくちゃになった職場を、労働組合の闘いを通して取り戻そう!

岡山では、ゆうメイトの仲間が職場の労働者と団結して闘い、非正規の雇い止め＝解雇は無効判決を勝ち取りました(別掲を参照)。会社は、雇用契約が満期終了しても一方的な解雇は出来ません。

職場の仲間の団結で、非正規労働者への雇い止め＝解雇を阻止しよう!

(2面に続く)



「雇い止め」は違法だ!

雇い止めは無効

郵便事業 元期間社員逆転勝訴 会社訴訟

高裁岡山支部

バイクで郵便配達中などの物損事故を理由に雇い止めされた郵便事業会社の期間雇用社員だった男性(30)岡山支部が雇い止めの無効を求めた訴訟の控訴審で、広島高裁岡山支部は17日、男性の請求を棄却した一審判決を破棄し、期間雇用社員としての地位を認

め、雇い止めされた2008年4月以降の給与の支払いを同社に命じた。判決理由で高田泰治裁判長は「男性の職務が過重になりがちで、会社側の管理体制も事故の一因となった。男性の職務評価は良好で、雇い止めには合理的理由がないとした。

二審判決などでは、男性は03年5月から岡山中央郵便局(当時)に非常勤職員として勤務。契約更新を繰り返して、07年10月の郵政民営化後も郵便事業会社と雇用契約を結んだ。バイクの後輪を縁石に乗り上げて停車中の車に追突するなど04年11月から08年2月までの

↑ 判決を報じる2月18日付『山陽新聞』

判決のポイント

- ① 期間雇用社員の雇用契約が反復更新されていれば、雇用契約が満期終了しても経営側の自由裁量で「雇い止め」として一方的な解雇は出来ない。それは解雇権の濫用である。
- ② 会社側が雇い止めの理由とした仕事上の交通事故については、正社員及び期間雇用社員を通じ、業務上交通事故を起こしても、物損事故程度であれば、繰り返し起こした者も含め、処分を受けることはない。事故の背後要因として、出発時の支店内作業の遅れや配達の遅れからくるあせりが確認されている。会社はこれらの要因を排除する対策を行っていない。

判決文と解説は全国労組交流センターのブログに掲載しています。また、郵送を希望される方は連絡を下さい。

全国労組交流センター
全通労働者部会

東京都台東区元浅草2-4-10 五宝堂・伊藤ビル5階
Tel 03(3845)7461 Fax 03(3845)7463
URL: <http://www.k-center.org> E-mail: centergo@nifty.com

2011年
2月23日
発行

(ビラの感想や職場状況など、またビラに載せてほしいことなどを、気軽にお寄せください。電話・メールどちらでも結構です。)

賃金の一律3割カットを阻止しよう

世界の労働運動から

エジプト・「職場をタハリール広場に」



2月11日、ムバラクを打倒したエジプトの労働者たちは、「職場をタハリールに！」を合言葉に、各職場でストライキ、職場占拠、自主管理の闘いに入っている。国有のエジプト航空では、労働者が社長解任を求めてストライキに入り、政府の民間航空庁は、エジプト航空社長を解任せざるをえなくなった。国営の石油・ガス会社では、労働者が賃上げと非正規職の正規化を求めてストライキに突入した（写真）。

アメリカ・州議会を占拠



アメリカ北中部のウィスコンシン州（人口569万人）で、1月から州知事に就任した共和党のスコット・ウォーカー知事が、「州がかかえる莫大な負債を削減するため」と称して、公務員労働者から集団交渉権を剥奪し、賃金と年金の大幅削減計画を打ち出したことに対して、2月15日州都マディソンに数万人の労働者が集まり、そのうち1万人以上が同案件を審議中の州議会に突入し、議場を占拠した（写真）。

赤字の一切の責任は
会社にある！

会社は、「業務研究会資料」等を使って赤字の原因を「郵便物数の減少による減収トレンドが続いていることが要因」と言っています。P E X 統合の破産にあることは誰にも明らかです。

新聞各紙でも「この惨状は、月に50億円の赤字を垂れ流した宅配便子会社（J P E X）の損失や、7月のJ P E X 吸収時の34万個のゆうパック遅配が主因」と報道しています。つまり「大赤字」の正体は「8割を非正規職に置きかえ、半分の賃金で2倍働かせる」計画であった、あの「郵政民営化の戦

略事業」J P E X 計画（小包部門の子会社化）を、現場の猛反対を押し切って強行した結果です。

その上で、そもそも経営が危機だから労働者は賃下げ・リストラを我慢せよという理屈は大間違いです。ましてや社会の根幹を支える公益事業である郵便や鉄道、自治体行政、医療・教育などはなおさらです。どんな離島であれ葉書1枚50円で届けられるから社会は成り立つのであって、民営化（もうけ第1の私的なビジネス）にすること自体が間違いないのです。

非正規労働者の雇い止め 解雇阻止が勝利の道

会社は今回、自らの責任でつくり出した赤字を理由に大リストラ

を強行しよう
としています。

この大リストラの突破口として非正規労働者の雇い止め解雇を位置

づけています。そして次には「正規職も痛みを分ける」べきとして大幅賃下げの成果主義賃金制度、「新たな人事・給与制度」の導入を狙っているのです。したがって、この3月末の非正規労働者への雇い止め解雇攻撃を阻止することが、郵政大リストラを阻止する道です。俺たち労働者をなめるんじゃないぞ！ 職場は怒りでいっぱいです。これまで文句の一言も言えなかった労働者が課長に対して「赤



お知らせ

私たちは地域で月1回の集まりを行っています。また、この2月末・3月始めには各地で春闘集会を計画しています。

ぜひとも、みなさんの参加・連絡を待っています！

字は会社の責任じゃないか！」と抗議の声をあげる事態が始まっています。さらに職場全体で「雇い止め・首切りをやめろ！ 賃下げをやめろ！」の声を上げよう。エジプトのように、全国の職場で仲間同士が団結して立ち上がったら首切り・賃下げは阻止できます。ともに団結して闘おう！

地域の合同労組に連絡をください！ ●東京東部ユニオン(葛飾区新小岩2-8-8クリスタルハイム302号 TEL:03-6410-4329 FAX:03-6410-4369 Eメール:tobuunion@grace.ocn.ne.jp) ●東京西部ユニオン(杉並区天沼3-6-1深澤ビル402 電話&FAX:03-3220-7473 Eメール:seibu-union@mocha.ocn.ne.jp) ●なんぶユニオン(品川区大井1-34-5河野ビル3F Tel&Fax:03-3778-0717 Eメール:nanbuunion@yahoo.co.jp) ●東京北部ユニオン(豊島区西池袋5-13-10 ハイマート西池袋603号 TEL&FAX 03-6914-0487 Eメール:tokyohokubuunion2010@yahoo.co.jp) ●ユニオン東京合同(千代田区三崎町2-17-8皆川ビル301「朔」気付 電話&FAX:03-3262-4440 Eメール:info@union-tg.org) ●合同労働組合八王子(八王子市明神町4-14-5リーベンスハイム2-203 電話&FAX:042-644-9914 Eメール:gorohachi2007@gmail.com) ●ちば合同労働組合(千葉市中央区要町2-8DC会館内 電話:043-225-2207 Eメール:chiba_goudou@yahoo.co.jp) ●合同労組かながわ(横浜市中区長者町8-136 米屋ビル303 電話&FAX:045-242-1055 Eメール:mep_workers@yahoo.co.jp) ●さいたまユニオン(電話:090-9825-0184 Eメール:norikakomaru@t.vodafone.ne.jp)